

京都市における名勝庭園の 立地環境の特徴と水環境の変遷

東野 友香

キーワード：水環境、GIS、名勝庭園、京都、立地環境

1. 序論

京都盆地は、南北方向での多様性が著しく、複数の川が作る複合扇状地帯として古くから水と深くつながりある地形を形成してきた。過去の研究からミクロスケールにおいて池泉庭園と源水的位置には深い関係があるとされてきたが、マクロスケールでの池泉庭園と水環境の関係を表したものはない。

2. 方法と目的

本研究では、京都市の都市計画図をもとに、1) 名勝庭園の立地環境の把握、2) 池泉庭園と枯山水庭園の立地条件についての考察、3) 大正時代からの土地利用変遷の把握、4) 池泉庭園と枯山水庭園の立地条件を決定づける理由について考察することを目的とした。

京都市内で現在、名勝指定とされている日本庭園は69ヶ所である。名勝庭園とは、「我が国にとって芸術上または鑑賞上価値の高いもの」¹⁾とされている。本研究では、そのうち36ヶ所を池泉庭園とし、33ヶ所を枯山水庭園と定義する。枯山水庭園とは、水を多量には使用しない茶庭などを含むものとする。一方、池泉庭園は近隣の水源から取水している庭園とする。

研究方法は1) 名勝庭園の立地環境の特徴(標高、傾斜角、傾斜の方角、山と水みちまでの最短距離)把握のためのGIS分析、2) GISのゾーン統計分析による結果の仮定に対する有意性の検証のため、Microsoft ExcelとSPSSによる統計的分析を行った。

3. 結果と考察

本研究において京都市における名勝庭園の立地環境と地形の間に明らかな相関が見られた。図1の結果のように、大正時代に比べ水みちは大き

く減少した。GISの統計データ、SPSSの相関関係分析、SPSSのT検定により、以下の二つの傾向が見られた。1) 池泉庭園と枯山水庭園の立地条件による違いの中で水環境の違いが最も明白であった。2) 池泉庭園から水みちへの距離は、枯山水庭園からの水みちへの距離より短い。3) 池泉、枯山水庭園の立地条件において、水みちからの距離は大正、平成時代のどちらにおいても有意な差が見られた。

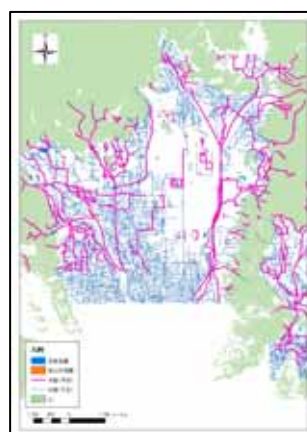


図 - 1 大正と平成の水みち

以上の結果から、枯山水庭園は、地形的要因というよりもむしろ、文化や歴史的要因が立地条件に大きく影響しているものであると考えられる。一方、池泉庭園は特に、水みちとの関わりにおいて枯山水庭園よりも立地環境の点で強い関係があり、そのことは環境の変遷を表す指標になる可能性がある結論づけられる。

参考文献：

「文化財保護法」

<<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25HO214.html>>(2007/2/5 アクセス)